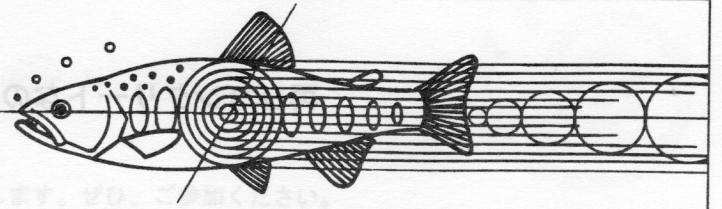
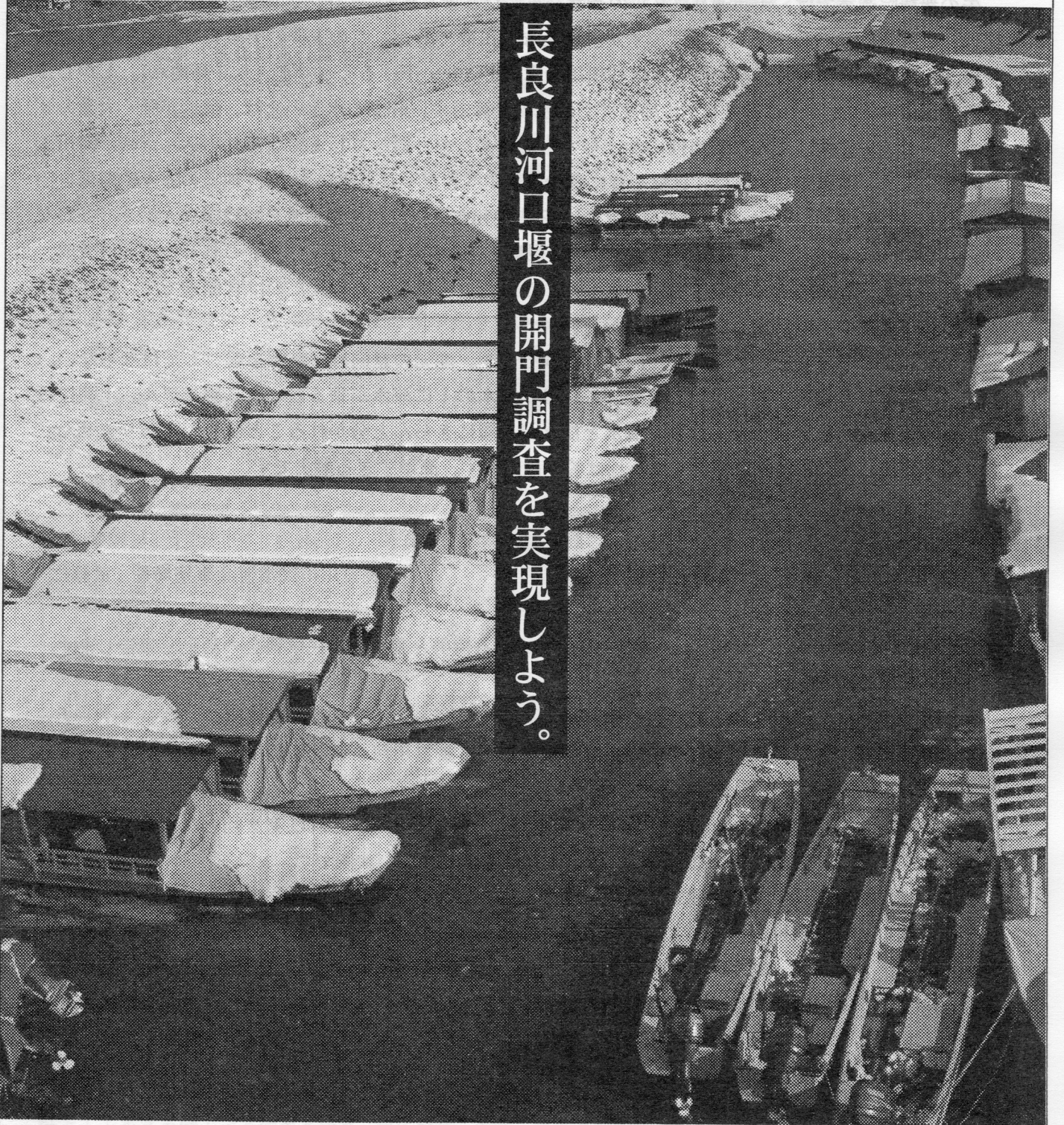


news

長良川市民学習会ニュース



長良川河口堰の開門調査を実現しよう。



No.15

2013年2月21日

表紙・目次(雪化粧した鶺鴒観光船).....P.1
情勢・活動報告.....P.2~5
徳山ダム導水路のこの5年.....P.6~7
長良川を語る.....P.8~9

西部さん ありがとう!!.....P.10
ご参加ください(今後の予定).....P.11
校歌に歌われた長良川・事務局より.....P.12

長良川を放射能で汚してはならない！私たちは、原発の再稼動に反対します。

再びコンクリートなのか

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

先の衆議院選挙では、予想通り(?)の選挙結果になりましたか。「コンクリートから人へ」は「政権交代」の実質的な内容であったはずですが、あえない玉砕でした。この玉砕の突破口は、もちろん、八ッ場ダムでした。洪水時に八ッ場ダムは利根川の水位を13cm下げるそうです(八斗島地点)。しかし、堤防の天辺はその4m上にあります。馬鹿げた治水の計算です。貯まる水といえば、酸性が強く大量のヒ素が含まれています。こんな正当性のかけらすらないダムを、造ってしまおうと丸め込んだのが河川ムラの連中です。前原国交大臣は、世論を背に政治決着すべきだったと思います。「地元の方々や関係自治体と話し合っただけ進めたい。」などと言うものだから、地元住民(だれ?推進派?)は国交大臣と「会わない。」とジャブを繰り返す。1都5県の知事は現場視察し、推進の意思表明をする。これじゃ地元は賛成、政府が茶々を入れたことになってしまいました。これだけ環境をととのえたのは官僚達です。民主党は誰と戦っていたのかの自覚もなかったようです。

正当性のかけらすらないのは長良川河口堰も同じです。地元の意向は「塩害を起こしてはならない。」で一致団結です。塩害の根拠は数式一つ。これは、海水の上に淡水が乗るという二層モデル。上流に行くに従って徐々に塩分は少なくなり、海水と淡水が二層にきちんと分かれることは決してありません。農業用水が使われない時期に実測してみれば答えは出ます。簡単すぎる解決です。

情勢と活動報告

長良川市民学習会事務局長 武藤仁

NEWS14号(昨年9月1日発行)以後の長良川をめぐる情勢と長良川市民学習会の活動を報告します。
長良川河口堰の開門をめぐる

愛知県では昨年度に引き続き河口堰の検証が進められています。長良川河口堰検証プロジェクトチームの報告書に基づき「長良川河口堰合同会議準備会」と「長良川河口堰最適運用検討会」がスタートしたことはNEWS14号でご紹介したとおりです。

9月以降「合同会議準備会」は10月30日に会議がもたれています。これは第2回となるものですが、基本となる「合同会議準備会の位置付け」がいまだに確定できない状況です。

会議の中で愛知県「最適運用検討委員会」側の小島・蔵治委員も国・水資源機構の「モニタリング部会」側の関口・松尾委員も「合同会議は開催しなければならない」という立場を明確にしているにもかかわらず、稲垣座長(前愛知県知事)だけが「国が合同会議に参加してくれるだろうか?」「岐阜や三重の理解が無い中では合同会議が開けないのではないか?」などの発言を繰り返し、自ら明言した「合同会議を早く立ち上げるのが自分の役目」を忘れてしまっています。4人の委員からはその姿勢にあきれはてる発言が続きました。「落としどころ」にそった仕事しかやることがない役人出身の座長は「落としどころ」が分からない会議はとても怖いのでしょう。国の顔色を伺っている座長のもとで次回準備会がいつ開かれるのか心配です。

一方「最適運用検討会」は第3回が9月3日(現地視察)、第4回が11月28日、第5回が今年1月15日に開催されています。利水、塩害、環境チームそれぞれで議論された成果が報告されています。

特に注目されるのが塩水遡上についての論議でした。これまで塩水遡上は「15km付近のマウンドで止まっていた」。浚渫でマウンドをとると「塩水は30kmまで遡上する」ので沿岸の農地に塩害が発生する。だから河口に堰を作らなければならない。という論理で河口堰事業が説明されてきました。しかし、塩害チームの今本博健京都大学名誉教授は、1965（昭和40）年の「木曾川水系工事実施基本計画」では、どこまで塩水が遡上するかに触れていない。遡上予測は河口堰建設着工後の1992（平成4）年に初めて建設省・水公団が「長良川河口堰に関する技術報告」で明らかにした。しかし、この技術報告には「疑問がある」として技術報告にそって疑問を指摘されました。これに続き在間正史弁護士（元長良川河口堰建設差止訴訟弁護団）が、「長良川河口堰に関する技術報告」の誤りを詳細に解説されました。

これらは河口堰事業の根拠を根底から崩すもので、更なる検討が期待されます。長良川市民学習会では今本、在間両氏を講師に招き3月2日（日）午後岐阜市内会場において勉強会「長良川河口堰と塩害・洪水」を開催します（事前申し込み必要。参加希望者は090-1284-1298 武藤までご連絡ください）。

よみがえれ長良川！

長良川市民学習会は愛知県の検証作業に呼応して広範な市民に長良川に関心を持ってもらおう、現場を見てもらおうと一昨年「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」実行委員会を流域の市民有志で発足させました。なごや環境大学「よみがえれ長良川！」はその中心的な活動です。9月16日には第3回講座として長良川中流（岐阜市）をラフティングで下る「リバーツアー」を取り組み、9月29日には岐阜大学の粕谷志郎先生とアジアの浅瀬と干潟を守る会の山本茂雄さんを講師に第4回講座「長良川の再生に向けて」を開催しました。



リバーツアーに参加した20代の女性は「とても水がきれいなので感動した」と長良川の魅力に引き込まれていました。小学生はラフトから「飛び込み」をして体いっぱい川を感じて楽しんでいました。

座学の「長良川の再生めざして」では、粕谷先生の「塩害論」に様々な立場からの発言があり、ちょっとヒートアップしそうな論争になりました。諫早問題で活動する陣内さんの発言もあり広い視野での講座になりました。山本茂雄さんのお話では、中国、ロシア、韓国等の水環境悪化は深刻で漁業が危機的な状況になっている。魚貝類の輸入が厳しくなる中で河口堰開門による貝類の復活がいかに大きな経済的価値があるのかを主張され、開門にむけたロマンを語られました。

これらの「よみがえれ長良川！」の取り組みは、2014年の「国連・持続可能な開発のための教育（ESD）10年最終年UNESCO会議」に向けて活動する中部ESD拠点から「伊勢三河湾流域ESD」

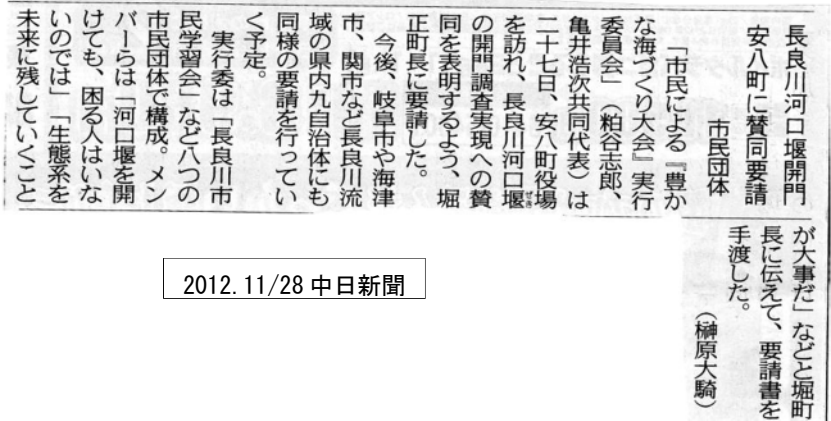


グッドプラクティスのひとつに選ばれ支援を受けました。「よみがえれ長良川」実行委員会は、河口堰問題を韓国の市民団体とも交流する取り組みをすすめています。昨年6月に「韓国4大河川事業視察と交流の旅」を取り組みました（NEWS14号参照）。その流れで今年1月11～14日、韓国から長良川河口堰、淀川、荒瀬ダムを視察・交流する6名の視察団を迎えました。河口堰視察は11日、山内克典元長良川下流域生物相

調査団長らの案内で行われました。河口堰視察後、ラムサール条約湿地藤前干潟稲永ビジターセンターに移動し、日韓環境情報交流会を行ないました。参加者は20数名。NPO藤前干潟を守る会理事長の亀井浩次さんの「藤前干潟を守る取り組み」報告に続き、韓国側からはミョン・ホ（環境NGO生態地平研究所事務局長）さんの「4大河川事業による環境破壊の実態」報告のプレゼンテーションがありました。夜は、焼き鳥屋さんでお酒を飲みかわし若い世代の視察団と楽しく懇親しました。

長良川流域岐阜県で

私たちは河口堰開門の世論を広げようと長良川流域で流域10自治体の首長に「開門調査に賛同」を求める対話を申し入れています。これまで11月27日に安八町長、翌28日に瑞穂市長と対話を行ってきました。引き続き他の首長との対話を追求します。



2012.11/28 中日新聞

岐阜県長良川河口堰調査検討会に対しても「愛知県長良川河口堰検証委員会報告書ならびに同専門委員会報告書の作成者の出席を求め説明・意見交換すること」や「開門調査の賛同」を要請しました。2月18日に開催された平成24年度長良川河口堰調査検討会では、愛知県の検証は作業中であるとの理由から説明・意見交換などはありませんでしたが、事務局である岐阜県河川課長からは愛知県の河口堰検証作業の丁寧な「経過報告」がされました。また、この調査検討会では「岐阜県のシンボルであるアユのためにもっと堰を開けてほしい」「国・水機構が進める弾力的運用は、どんなモデル・レベルをめざしているのかよく分からない」などの意見が委員から出されていました。

徳山ダム導水路（木曾川水系連絡導水路）をめぐって

昨年12月16日の総選挙で民主党が大敗し自公政権が復活するという大きな政変がありました。「コンクリートから人へ」の掛け声でスタートした民主党新政権に、導水路事業の中止・長良川河口堰の開門をめざす私たちは大きな期待をしました。しかし、様々なゆさぶりの中でこの掛け声は消え、この政権はダム事業の継続・消費税引き上げ・原発再稼働に向かうというまったく国民が期待しなかった道を進み始めました。

選挙結果は、この政権への国民の大きな失望と怒りを奇貨とした自公勢力の大量議席確保・政権奪還に終わりました。この選挙戦では「原発はいらない」という国民の大多数の声をバックにした脱原発を掲げる勢力の躍進が期待されましたが、「第三極」・政党の離合集散劇がマスコミで踊る中、争点はずしの「景気回復」の大声にあえなく大敗しました。新政権は、アベノミ

大村さん、河村さん！ 導水路撤退

「導水路見直し」共同公約から
2年経ちました。

河村たかし名古屋市長は、2009年5月、導水路事業から撤退したい、という発言をしました。2011年には、大村（愛知県知事）河村（名古屋市長）コンビの共同公約として「導水路見直し」が掲げられました。私たちは大いに期待しました。

が、現時点で「見直し」も「撤退」も、何の動きも見えていません。そしてこうしている間にも、事業経費と人件費だけで、毎年2億円をゆうに超すのお金が使われ続けています。

徳山ダムから水を引く木曾川水系連絡導水路。事業費89億9千万円。うち愛知県負担約31.8億円（利水約1.86億円、治水約13.2億円）、名古屋市負担約12.1億円です。愛知県によって名古屋に引かれても、全く使い道のない不安な事業であるばかりが、長良川及び本管川に新たな環境破壊をもたらすおそれがあります。

昨年秋に成立した安倍内閣は、菅原の「公民」事業推進姿勢を打ち出しています。このままの態勢に任せれば、本管工事進行へと向かうでしょう。

今なら「撤退コール」（独立行政法人水資源機構法に規定）に基づいて、愛知県・名古屋は撤退が許せて、この導水路事業から撤退できます。大村さん、河村さん。速やかに正式に「撤退」して下さい。環境部が行っている「水資源」の検証、明確に「見直し」を表明して下さい。

今なら、撤退負担金ゼロで撤退できる！

最新情報：1 自治体連（本管川水系連絡導水路への公金支出禁止請求）第14回 口頭申請
3月23日（水） 10:45 → 名古屋地方法務局 1号出張

導水路はいらない！愛知の会 <http://www.dousuiro-aichi.org/>

クスの看板で大型公共事業の大展開に動き出しました。

現在「凍結」の名で着工に「待った」がかかっている導水路事業はいったいどうなるのでしょうか。

来年度予算に向けた動きで新聞は「国交省が検証作業中の水資源機構による木曾川水系連絡導水路事業は12年度比2700万円（9.3%）減の2億6300万円にとどまった。同省によると、事務取り扱い費の減額が要因。雨量や流量、水質などの調査を継続するための最小限の規模で配分された。導水路事業は概略設計がすでに完了しているが、13年度も詳細設計や用地買収、導水路本体などの工事には着手しない。」（2013.1/30 岐阜新聞）と報道しています。

国交省の検証作業につながる「関係地方公共団体からなる検討の場」の結論によって一気に着工に踏み切る厳しい情勢にあります。導水路事業の見直しを共同マニフェストに掲げた大村・河村コンビですが、愛知県・名古屋市当局はこれを全く無視して一昨年6月の第1回「検討の場」において導水路の必要性を主張しています。この事態を見過ごせば「凍結」解除、着工を許すことになります。

現在、名古屋地方裁判所で戦われている導水路事業公金支出差し止め訴訟では、「知事は無駄な支出を支払わないことができる」＝「撤退ルール」が論争になりそうです。裁判所内にとどめるのではなく広く市民世論に広げることが求められています。

私たちは「導水路はいらない！愛知の会」の呼び掛けに応えて1月17日愛知県、名古屋市上下水道当局に「今なら負担金ゼロで撤退できる！」と在間弁護士の「撤退ルールの説明」を中心に要請行動と街頭宣伝を行いました。両当局の姿勢は「国の動向を見て」（愛知県）「想定外の渇水にも耐えられるよう徳山ダム導水路は必要」（名古屋市上下水道局）と導水路建設にすがりついています。

いま全国的に検証中のダム事業は、地方での「検討の場」での了承、国の「有識者会議」の追認を経て雪崩的に本体着工、事業推進が加速しています。

愛知県の豊川の設楽ダム建設事業では、来年度政府予算案で生活再建事業に87億円が生まれ、全移転補償に見通しをつけ建設を加速させようとしています。勢いをつけた国交省中部地方整備局は事業「継続」を提示。1月17日の「検討の場」で自治体側が了承。建設に向かうテンポが速まっています。

「徳山ダム導水路問題」は2009年の「凍結」以来マスコミ報道や市民の関心から霞んでいます。しかし、いま「急に動き出す」危険な状況です。あらゆる動きに注意しながら長良川市民学習会の発足の原点に立ち返って「導水路事業中止」をめざす運動にエンジンをかけましょう。

*このNEWS読者の中でも「導水路問題ってどうなったのかな？」という方も多いと思います。

次ページからの「徳山ダム導水路の5年」を是非お読みください。

徳山ダム導水路撤退を要請

市民団体 大村知事と河村市長に

「徳山ダム」（岐阜県揖斐郡 斐川町）の木曾川水系連絡導水路建設に反対する市民団体「導水路はいらない！愛知の会」（加藤伸久、小林取共同代表）が17日、大村秀章知事と河村たかし名古屋市長に対し、2011年2月に同時に実施された知事選、名古屋市長選での共同約束を守り、撤退を求め

める要請文を提出した。導水路は、徳山ダムの水を地下トンネルで木曾川と長良川に流し、愛知県や名古屋市の都市用水や、濁水時の木曾川と長良川の流量維持などに利用するもので、事業費は約890億円。15年度完成を予定していたが、民主党政権は09年、ダム事業の一時凍結方針を表明、再検証の対象となり、現在も着工されず、足踏み状態が続いている。11年の知事選、市長選で、大村知事、河村市長は「導水路事業の見直し」を公約として明記している。要請文では「導水路事業は、県、名古屋市に全く不要で、財政を一層危機に陥らせる」として撤退を求めている。県庁内で記者会見した加藤、小林共同代表は、知事と市長は公約通りに、早期撤退すべきだ」と訴えた。これに対し、県土地水資源課と市水道計画課は「国土交通省が設けた検討会での議論の行方を見守る」としている。

徳山ダム導水路の5年 ～長良川に徳山ダムの水はいらない！

長良川に徳山ダムの水を流す「木曾川水系連絡導水路 - 上流分割案 -」

2007年8月23日の各紙は、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市の三県一市と国が、長良川に一部を放流する徳山ダム導水路（木曾川水系連絡導水路）「上流分割案」を合意したと報じた。

水温が低く藻類の繁茂したダムの水を長く暗い導水路を通して、鵜飼いの行われるすぐ上流から流そうというのだ。長良川はすでに河口堰によって痛めつけられている。長良川本来の自然が、より一層危うくなる。

なぜ徳山ダムの水を長良川に流すのか？国交省は「10億円のコスト縮減」「異常渇水時の長良川の河川環境保全」などと説明したが、およそ説得力はない。「これ長良川河口堰のゲートを永遠に開かなくする案だ」。仲間の一人が呟いた。（※）

※ 名古屋市や愛知県の「長良川河口堰の中流部での取水」への願望がこの「上流分割案／下流施設」の背景にあることが、後に明らかになった。詳細はNews 4号、5号に。



2007. 8/23 岐阜新聞

「長良川を守れ」の声を一気に広げる

2007年12月17日、危機感をもった市民が、「長良川に徳山ダムの水はいらない！市民学習会」（長良川市民学習会）を発足させた。口コミだけで集った長良川市民学習会であったが、その動きは素早く、かつ多岐にわたった。

2008年1月14日には、放流場所とされる古津からポリ袋に1秒分の水（0.7m³）を入れて流す市民調査を実施。16日には朝日新聞岐阜県版に「長良川に徳山ダムの水はいらない！」の全面意見広告。そして第1回市民学習会の開催。告知の期間もルートも限られている中、会場定員100名をはるかに超える参加を得て学習会は大成功であった。

引き続き、長良川河畔の住宅や店舗にポスティング。岐阜市民の間に関心が高まった。

岐阜市議員アンケート。60%の回答率であった。国は地元議会にも何も説明していないこと、議員の多くは事業に懸念をもっていること浮かび上がった。

岐阜県、岐阜市、国交省中部地整に対する度重なる交渉。特に国交省中部地整には、計画の矛盾を論理的に突きつけるとともに、公開の場で市民への説明責任を果たすよう迫った。国交省がようやく市民向けに開催した説明会（6月29日「ふれあいセミナー」）では、市民からの数多くの鋭い質問に、国交省側は立ち往生する始末であった。

9月岐阜県議会にむけての請願署名は、総計2万3千筆を超えた。岐阜県内のみならず、全国から続々と署名が寄せられ、関心の高さが明らかになった。

こうした声を押されて、岐阜県は事業実施計画策定の過程で「環境への配慮」を条件とし、環境に関する119項目に



2008. 1/15 中日新聞



2008. 9/25 岐阜新聞

わたる質問を出した。結局、事業者（国→水資源機構）がこれに答えきれないまま、2009年度の本体着工は見送られた。長良川市民学習会の動きが世論を作りだし、その世論が着工への動きを止めたと言えるだろう。

名古屋市、愛知県での動き

徳山ダム導水路の主要な目的は、愛知県、名古屋市が徳山ダムに確保した新規利水分を木曾川で取水できるようにすることにある。しかし、愛知県でも、名古屋市でも水需要は増えるどころか減り始めている。徳山ダムの水は要らない、だから導水路にはや新たに巨額の投資を行うべきではない、まさに無駄に無駄を重ねる事業だ。

2009年、愛知県の住民が導水路事業への公金支出を違法とする監査請求を行い、住民訴訟を起こした。裁判は、証人尋問を前にした今、愛知県（知事）の自主判断を巡って激しい論争となっている。この住民訴訟を担う「導水路はいらない！愛知の会」の発足集会（2009.3）には、当時衆議院議員だった河村たかし氏も顔を出した。

そして、2009年5月15日の中日新聞は、4月に名古屋市長になったばかりの河村市長の導水路撤退意向を大きく伝えた。しかし、当時の愛知県知事を筆頭とする推進派の凄まじい攻撃に、河村氏は反撃しきれないで今に至っている。



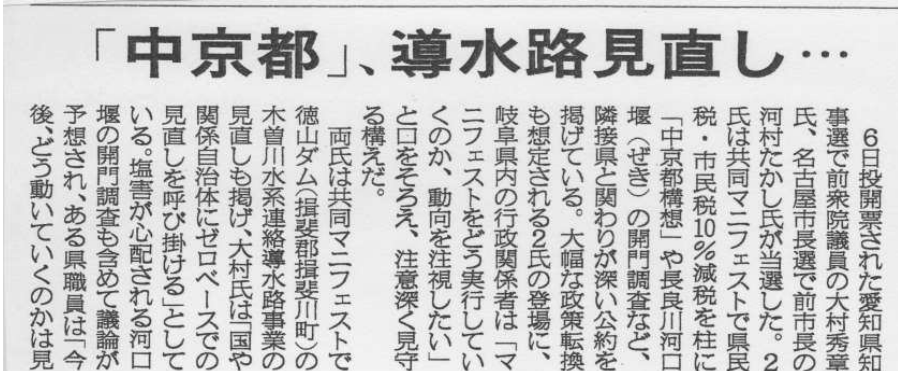
2009.1/31 中日新聞



2009.5/15 中日新聞

2010年、生物多様性COP10が名古屋で開催されたのを機に、東海地方では、環境問題への意識が大きく高まった。人為的な自然改変を止め、生態系を回復させようとさまざまな市民団体が動いた。長良川市民学習会もその一つだ。

この盛り上がりを受けての、2011年の愛知県知事・名古屋市長同時選挙であった。大村・河村コンビは共同 Manifesto で環境政策を掲げ、「導水路事業の見直し」を公約として圧勝した。だが、「導水路事業見直し」は実現していない。



2011.2/7 岐阜新聞

再び動き出すか 導水路事業

2009年8月の総選挙で「コンクリートから人へ」の政権交代があり、全国のダム事業の「再検証」が指示された。導水路事業もその対象となるとともに、現在「凍結」となっている。

昨年暮れの総選挙は民主党自滅によって自民党が政権を「取り戻」した安倍内閣は、昔ながらの土建公共事業重視の政策を打ち出している。ダム事業「再検証」では、次々と「継続」方針が出されてきているが、この動きは加速していくだろう。

無駄な公共事業、環境破壊の公共事業の典型である徳山ダム導水路事業を止められるかどうか。今、正念場にさしかかっている。

(文責) 近藤ゆり子

長良川を語る ー長良川の今昔ー

長良川漁業協同組合・副組合長 山中茂さんに聴く

山中茂さんは昭和7年（1932年）生まれで今年81歳。岐阜市鏡島在住。長良川の7漁協の1つ、中下流域の長良川漁協の副組合長です。10歳頃から漁を始め、鵜飼やライン下りの船頭もやり、河川工事、砂利採取等の仕事にも従事。長良川とは深く、長く関わってこられ、長良川を最もよく知る方の一人です。

（2012年12月26日、2013年2月13日に長良川漁協事務所にてお話を伺いました。）



ー 長良川河口堰が閉まって18年経ち、環境悪化は誰が見てもはっきりしてきていると思います。愛知県で大村知事が開門調査をしてはどうかと委員会を開き努力しています。塩害を心配されている海津のみなさんに迷惑にならないよう留意して、開門調査をぜひ実現して欲しいと私たちは思っています。長良川のことをよくご存知の山中さんに長良川の今昔を是非お聴きしたいと伺いました。

山中 大橋（亮一）さんとも言っていますが、あそこ（海津）には塩は絶対に入りようがないんだわ。25メートルの矢板を打ち込んで、入らんようにしてあるんやから。それより危ないのは揖斐川の方だわ。

ー 長良川を閉め切ったからですか？

山中 潮の満ち引きが河口堰で止められ、影響で揖斐川の養老辺りまで上って、潮の流れは速くなるし、揖斐の漁師は難儀してみえる。魚が上らんようになり獲れんようになってしまった。

ー どうしてですか？

山中 長良川でガイワレ（産卵して孵化すること）せんためか鮎が減っていった。長良で孵化した鮎が木曾、長良、揖斐川に遡ってたのが、堰ができてから揖斐川でも遡らんようになった。

ー 揖斐川でも放流しているんですか？

山中 孵化事業をしない、木曾三川は全滅だわね。

ー 長良川漁協でされている孵化事業を具体的に教えていただけますか？

山中 島大橋辺りで産卵する鮎を捕まえ、受精させた卵を人工的にシュロに付けると受精して3日程で眼がでる（ガイワレ・眼割れ）。それから死なんうちにトラックで40キロくらい下流の堰まで持って走り、河口堰の右岸側の人口河川に設置した金網を張った箱にぶらさげ沈めておく。10日位で孵化し海へ下っていく。うっかりして箱に穴でもあいとるとエビが入ってきて一晩で全部食べられてしまう。

ー 大変なご苦労ですが、昔からやっていたのですか？

山中 50年くらい前もやっていたけれど、その頃は川の産卵場で孵化させれば自然に川の流れで下っていった。今は車で運ばないかん。堰ができて2年目頃から魚が減ってきたので、組合の義務放流ぐらいはやろうと、はじめは一人で始めた。今は組合でやっとする。

ー 何匹くらい孵化させているのですか？

山中 シュロ1本に3万粒。3000本付けるので9000万ぐらい。それを10日ぐらいでやっている。厳しい仕事やし、やれる人もそうおらんし、いつまでできるかわからんわね。



長良川漁協事務所倉庫に保管されたシュロ

— その人工河川に入れるようにしたのはいつ頃からですか。

山中 初めからそのつもりで、河口堰のあの魚道を設計したのは和田吉弘先生だわ。その頃先生は、堰ができれば鮎はダメになる、シジミも全滅だと言っておられた。

— ええっそうですか！それははじめて伺いますね。

山中 先生もはじめは河口堰には反対しておられよった。若いうちから30年以上の付き合いで、私んらも協力し、信用しとったんだけど、知らんうちに変わられてしまわれた。

— 河口堰ができると影響がでると山中さんも考えておられたんですか。

山中 木曽川に馬飼大堰（木曽川大堰）ができたときは（1977年竣工）、10年で漁師がゼロになってしまって、大橋さんにも、長良川もそうなるぞ、と言っておったんです。

— 昔、最盛期には山中さんはどれくらい鮎をとられたんですか。

山中 一晩で50キロから60キロぐらい。1キロで10匹から12匹、結構大きいのが500～600匹くらいということかな。シラスウナギやカニでも昔はよう稼げた。

— 今も漁をしておられますか。

山中 今は自分とこや近所に配るくらいやね。春は登り落ちでヨシノボリ、夏は鮎やサツキマス。冬はイカダバエのハエなんかやね。近所の老人会に鮎雑炊を配り、喜んでもらっとるよ。

— 組合員はどれぐらいですか。若い漁師さんはおられますか。

山中 長良川本川の郡上、中央、長良の漁協全部で1700から1800人ぐらい。前は2500人くらいいたけど、だいぶ減ってしまったし、平均年齢も65歳以上。専業でやっておる人は数えるほど。10人もおらんかも。前のようないい川で魚がたくさんおればやる人も増えるやろうが、今では飯が食えん。漁の仕方も消え、船大工もいなくなってしまう。もったいないことだわ。

— 最近、鮎に変な病気が出ていると聞きましたか。

山中 去年、一昨年ごろから伝染病がはやっとるわね。調べたらどうやら関西から来とるようで、長良川から東にはないらしい。ヨシノボリがかかって、それが鮎にうつってしまったらしい。冷水病とも違って、胸の辺が腫れて水がたまってしまう。

— 長らく長良川を見てこられて、川の様子は変わっていますか？

山中 川底の変化が大きいね。上流のゴルフ場や道路工事、農薬なんかの影響も大きいと思うよ。河川工事や砂の採り方にもっと気を遣って欲しい。国交省の人達によく話しとるんだけど、ワンド（水が引くと河原になる入江）がなくなってまったため魚が棲みにくくなっとる。水量も減ってきて、鮎の産卵の時期も前とはだいぶ違って遅うなるとる。

— 今一番長良川について伝えたいことは何ですか。

山中 今の長良川は清流やあらへん。河口堰はいいことは何もないわね。漁師はみんな、堰を上げて欲しいと思っとると思うよ。あらかない金を使わんでも、智恵をしぼれば今よりずっといい川になる。そうなって欲しいわね。

聞き手：粕谷豊樹、武藤仁、田中万寿（文責：田中）

西部さん ありがとう!!

長良川市民学習会事務局 岡久米子

西部節子さんが逝かれてからもう一ヶ月半月の時間が流れようとしています。

でもいまだに亡くなられたことが信じられず、ふと「こんにちは〜!」とニコッと笑いなら声をかけてくださるような気がしてなりません。

長良川市民学習会で初めてお会いして5年余短いお付き合いでしたが、ずーっと以前からの知り合いのように仲良くしてもらいました。その間愚痴のようなことは一度も聞いたことがありませんでした。「この会の人は皆ほんとにいい人ばかりで、ここへ来ると元気がもらえて来るのがとても楽しみなの!」が口癖でした。

病気で治療を受けられるようになってからも、抗がん剤治療後の辛い日にちを逆算し、病院と交渉して、治療日を替えてもらって 学習会や実行委員会に参加されていました。体調が悪ければ、もういいわ・・・と仕方なく挫折してしまうものですが、そんなふうにしてまで会の活動に参加されていたこと。それは会員がいい人たちだけだからでなく長良川に対する強い思い、西部さんの生き方だったのでしょう。

産業廃棄物、原発など、譲れないものへの行動、そして日常的な長良川のゴミ拾い、大好きだった合唱団活動など、どんな場面でもいつも自分に正直に出来ることをニコニコと当たり前のようにしてらした。小さいけれど大きく輝く元気な 西部さんでした。

ある時期長良川筋の会員が急に増えたことがあったのですが、それはコツコツと何日も時間を惜しまずポスティングをしてくださった西部さんのお陰でした。長良川市民学習会が地域に根ざした会になったようでとても嬉しく感謝したことが思い出されます。

西部さん、本当にお疲れさまでした。有難うございました!!

貴女のことは私たちの心から消えることはありません!!。いつまでも仲間として一緒に活動してくださいね〜。



2012. 6. 17 韓国のダム工事現場で地元の青年と「脱原発」の横断幕を掲げる西部さん（右端）。

西部節子さんと第九

1936年（昭和11年）岐阜市加納に生まれる。経済的に厳しい環境で兄弟の世話をしながら家計を支えられました。岐阜高校在学中にコーラス部に入れドイツ語でベートーヴェンの第九を合唱。以来、人生を通して彼女の体には第九が流れていました。最期は自宅で枕元のご家族と第九を口ずさみながら逝かれました。

NEWS14号「韓国の旅に参加して」で彼女は自分の生き様の片鱗を語っていました。

（文責 武藤）

ご参加ください（今後の予定）

長良川市民学習会が主催または参加する取り組みを紹介します。ぜひ、ご参加ください。

事前申し込みが必要なものに参加を希望される方は事務局 090-1284-1298 武藤までご連絡ください。

3/2 勉強会「長良川河口堰と塩害・洪水」

- 日時 3月2日（土）午後 1:30～4:30 ●会場 ハートフルスクエアG 研修室50（JR 岐阜駅東詰）
資料代 500 円（事前申し込み必要。先着 50 名）
- 講師 今本博健 京都大学名誉教授・元防災研究所長
在間正史 元長良川河口堰建設差止裁判弁護士

3/10 みんなともだち tunagari フェスティバル

- 日時 3月10日（日）午前 10:30～午後 3:30 ●会場 岐阜市金公園 文化センター前広場
「祈ろう、歩こう。さよなら原発パレード・ぎふ」 午後 1:00～午後 2:15

3/20 市民学習会「長良川のアユに何が起きているのか？」

- 日時 3月20日（祝）午後 1:30～4:30 ●会場 ハートフルスクエアG 大研修室（JR 岐阜駅東詰）
資料代 500 円 事前申し込み不要 参加自由
- 講師 新村安雄 リバーリバイバル研究所代表 語り手 山中茂、大橋亮一、中山文夫の各氏

5/25 長良川下流域ヨシ原環境観察会

- 日時 5月25日（土）午前 10:00～12:00 ●会場 長良川・揖斐川下流
参加費 500 円 学生・子ども無料（事前申し込み必要）
- 講師 千藤克彦 元長良川下流域生物相調査団々員

なごや環境大学共育講座「よみがえれ長良川！」

*事前申し込み必要

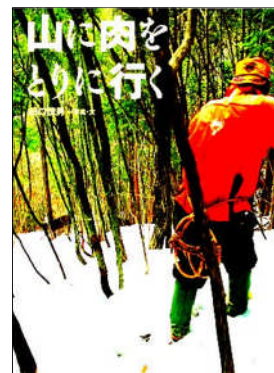
日時と参加費		講座	講師
5/11 (土)	10:00～15:00 1000円	長良川河口堰と河口の環境 乗船し河口堰周辺の環境を観察します。	粕谷 志郎 (岐阜大学教授)
6/2 (日)	10:00～15:00 1000円	源流の山と森 源流の山と森を歩き、山と川を考えます。	小森 胤樹 (林業従事者)
7/14 (日)	10:00～15:00 1000円	長良川リバーツアー 長良川中流をラフティングで下ります。	高木 久司 (長良川河口堰建設に反対する会)
9/29 (日)	14:00～16:00 500円	長良川の再生に向けて 長良川の再生に向けてできることを考えます。	長良川河口堰検証委員

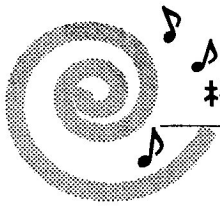
本の紹介

山に肉をとりに行く

写真・文＝田口茂男 発行 岩崎書店 1600円

長良川上流の山間地、郡上市明宝。ここに住み、狩猟をはじめて十数年。仲間の猟師さんとの冬の雪山での鹿猟の様子、猪の解体、春夏の農作業や山仕事など、山の生活を共にして生み出した写真絵本。山と人々の関係について、天然鳥獣（有害鳥獣）のこと、食料を生み出す農地や、その基盤になる山や川や海のことを考えるための好書。前作「サツキマスのいた川」から20年目の作品です。





校歌に歌われた長良川 ⑮

羽島市立堀津小学校校歌

一、七つの光 さわやかに

羽島の空の さや雲を

そめて希望の 日がのぼる

心豊かに むつび合い

学ぼう われら 堀津小学校

二、いぶきの姿 うつつつ

つきぬ長良の 清流に

胸も明るく 燃えてくる

若い力を よせ合って

はげもう われら 堀津小学校

三、風のかおりも いくめぐり

歴史とうとい 学びやに

明日の願いが さきほこる

まことの道を ひとすじに

進もう われら 堀津小学校

私の母校の堀津（ほつ）小学校は羽島市の南西部、長良川の傍にあります。この辺りは長良川と木曾川に挟まれ、町の中を桑原川が流れています。小さい頃から長良川についても勉強することが多く、先人は水の恵みを楽しめると共に、洪水にも悩まされてきたことを聞きました。1月には堤防で風揚げをしたり、ダンボールをそりにして遊んだりしましたが歳をとるにつれ長良川からだんだん離れていってしまった気がします。私の生活と切っても切れないこの長良川に、今一度向き合う機会を作ろうと考えています。（中川敦詞）
（サツキマス漁師の大橋亮一・修さんの住む小熊地区は堀津の数キロ上流に位置する。大橋さんは毎年、サツキマス漁の頃長良河畔で堀津小学校の校外学習の講師になって子どもたちに長良川のことを語っておられるとか。徳山ダムの水を長良川経由で木曾川に流す導水路計画の下流施設はこの羽島市に計画されている）

事務局より

- ・鰻も遡上できる川へ（傍島）
- ・あるがままに 思うままに流れよ長良川 よみがえれ長良川！（河合）
- ・これ以上人工的に長良川環境を変えることに反対です。（K）
- ・バブルの頃に岐阜に来て26年。河口堰、徳山ダムで水需要批判をして25年。節水、人口減少の時代がはっきりしました（トガシ）
- ・川オタク、水オタクに引っぱられて5年、メンバーの情熱には敬服。（E.T）
- ・人からコンクリートへ?? もう一度コンクリートか!!（ダムはイヤ）

- ・「コンクリートから人へ」の人々の思いは、このままどこかに行ってしまうのでしょうか。心配です（堀）
- ・孫たちに囲まれて、郡上から長島の海までカヌーで下る夢を見ました。（加藤）
- ・環境破壊か節水か……もう一度自分に問いかけています。（田中）
- ・おまかせ民主主義を卒業して、地域でしっかり発言していきましょう。（豊）
今年もよろしくお祈りします。（事務局全員よより）

長良川市民学習会

「長良川のアユに何が起きているのか？」

3月20日（水・祝）pm 1:30~4:30

ハートフルG大研修室 講演：新村安雄さん

語り手：山中茂、大橋亮一、中山文夫の各氏

※ニュースのバックナンバーは長良川市民学習会ホームページ <http://dousui.org/> でご覧いただけます。

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁/090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。

賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会